

【給食協会賞】十二年間の給食

志貴小学校 本田 小桃

「キーンコーンカーンコーン。」

教室に鳴りひびくチャイム。四時間目が終わったチャイムは、どのチャイムよりも大好きだ。なぜかというところは給食だからだ。給食はすごくおいしくて笑顔がいっぱいになる。

月に一度、配られる献立表を見るのが、すごく楽しみでわくわくする。自分の大好きな給食のメニューが一度に見られるのと、その給食の具材が何を使っているのかが分かるからだ。私は、献立表に書いてある具材でいろいろな給食の料理を作ったのだが、学校のおいしい給食とは、何か味がちがう。どうして、あんなに給食がおいしいのか疑問に思った私は、調べてみることにした。給食には、赤、黄、緑の栄養バランス、愛情があるからだと考えた。給食には、いろとりどりの色のバランスがかくされてあるし六年生で習った、主食、主菜、副菜がしっかりと考えられているからだと思う。愛情は作る人、献立を考える人、私たちにおいしい給食を届けたいという人がいなければ給食は、食べられないし、栄養バランスなどが無い給食になってしまふ。なので当たり前前に食べている給食じゃなくて、動物の命、農家さん、作ってくれて私たちにおいしい給食を届けてくれる人全てに感謝をしていきたい。

給食の味は、私の思い出の味。
これからも、毎日の給食が楽しみだ。給食は、いつまでも食べられる訳じゃなくて、高校生になった

姉と兄は、給食じゃなくて弁当なので私が

「今日の給食、おいしかったな。」

といういつもうらやましがるので、そう思うと出があり、おいしかったんだなと思った。給食は、ずっと食べることはできないので毎日の給食にありがたみを持ちこれからもおいしい給食をいっぱい食べて大きくなりたいです。

「キーンコーンカーンコーン。」

今日も大好きな時間がきた。

「いただきます。」